

新庁舎・(仮称)新福祉会館建設に係る市民説明会(第1回)	日時	平成31年1月24日(木) 19:00~20:46	場所	前原町西之台会館 集会室A
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、岡崎主任、小林主任 地域福祉課 山口主査			
参加者数	18人(うち市議会議員4人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 これまでの経過と今後の取組みについて 4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行:渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 西岡市長による開会挨拶を行った。</p> <p>3 これまでの経過と今後の取組みについて</p> <p>4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 西岡市長及び高橋庁舎建設等担当課長が各項目について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 設計者選考に当たっての手續論が主であり、方針等の説明ではなかったように受け止めた。複合化整備方針の内容のほとんどが「基本設計で整理する」等といった記載である。方針というよりもやらなければいけないことを羅列しているだけである。この内容で新庁舎建設がうまく進むのか疑問である。施設内機能や基本コンセプト等は定めているのか。</p> <p>→ 機能、方針等は、新庁舎建設基本計画及び(仮称)新福祉会館建設基本計画で定めている。その上で複合化することを複合化整備方針で定めた。執務環境調査報告書、建設計画調査報告書等は市ホームページに公開の上、委託事業者の募集を行っている。</p> <p>【市民B】 どのように施設をつくるかということに説明が終始していて、どのような施設をつくるかの説明がない。市民が期待感を持つような説明を行ってほしい。新庁舎建設基本計画は、平成25年に策定されており、策定から5年程度経過している。例えば、CO<sub>2</sub>排出量は平成25年度から増加しており、環境に関しても、どのように環境に優しい庁舎にするかの議論が必要である。環境配慮の配点が15点しかないのは、配分が低いのではないか。CASBEEなど環境配慮型のグリーン庁舎をつくってもらえることを第一に基本設計者を選考してほしい。</p> <p>→ 本日資料として配布していないが、基本設計業務委託仕様書(案)の中では、環境に関し、留意すべき事項を定めている。また、CASBEEの自己評価を行うことも定めている。</p> <p>説明会では、時間の関係もあり、全てを説明しきれないため、経過を説明した。新庁舎建設基本計画及び(仮称)新福祉会館建設基本計画を定めており、基本設計段階で建設の在り方、機能連携の在り方等を決定していくこととなる。基本設計は、両計画の理念を具現化する段階であり、90億円を超える大事業である。市民の皆様には夢を持っていただきたいと考えている。建物だけでなく、広場、駐車場、駐輪場、災害時の利用方法、屋上の活用など、庁舎建設予定地を最大限有効活用できるよう議論を重ねていきたい。</p> <p>【市民C】 庁舎建設予定地は、野川への地下水脈がある場所であり、過去に清掃関連施設建設候補地となった際に地下水保全会議では、清掃関連施設建設場所として適切ではないとの結論が出た。地下水脈を切断しないように配慮した設計をしてほしい。施設ができたことにより、野川が枯れることがないように願う。</p> <p>→ 設計の条件に関することは事業候補者選考中のためお答えできないが、小金井市において野川が大切なことは理解している。</p> <p>【市民C】 環境を著しく破壊するような工事は行わないということで良いか。</p> <p>→ 良い。</p> <p>【市民D】 新庁舎建設基本計画では、「おおむね4階程度で、地下駐車場はつくらない」と定めてあるが、(仮称)新福祉会館と複合化すると方針が変わったために、「おおむね7階で、地下駐車場をつくる」と方針が変わった。計画策定から年数が経過しており、変わった部分と変わらない部分とを委託事業者選考に当たって適切に示す必要がある。</p> <p>→ 新庁舎建設基本計画では、庁舎単体で整備としていたが、(仮称)新福祉会館も庁舎建設予定地に複合施設として整備することとした。駐車場は、「自走式立体駐車場を基本としつつ、</p>				

使用頻度や管理面などから地下駐車場、平面駐車場を含め効率的な整備方式の採用を検討する」としており、地下駐車場をつくらないと決めていたわけではない。この間、市報や市民説明会で申し上げており、新庁舎建設基本構想からの資料は調査報告書を含めて全て公開の上、募集を行っている。

新庁舎建設基本計画では、今後の検討事項が多く残っている。実施設計段階で決めるべき事項もあるかもしれないが、基本設計段階で決めるべき事項はしっかり決定する。その中で、基本計画と異なることもあるかもしれないが、年数の経過に合わせて、考え方や従うべき基準等が変わっていることもあるので、時代の要請に合わせて臨機応変に対応したい。

【市民B】 市議会へCASBEEのSランク取得を目指してほしいと言っている。ライフサイクルコストはSランクの方が低減される。是非Sランク取得を目指してほしい。世田谷区は基本計画段階からSランク取得を目指していた。

→ 世田谷区は、基本構想でSランク取得を目指すとした中で基本設計をしている。本市が基本設計でSランク取得を目指すとする場合、インシャルコストの増加が見込まれるが、具体的にどの程度コストが上がるのかは不明であり、ライフサイクルコストへの影響も不明である。CO<sub>2</sub>排出量削減も重要な視点と考えるが、事業費削減も命題となっている。環境性能については、仕様書(案)に盛り込み、CASBEEの自己評価も行っていきたいと考えている。

【市民B】 実施設計者は基本設計者とは別に再度選考するのか。

→ 随意契約の可能性もあるし、再度選考を行う可能性もある。

【市民A】 市民が新施設のコンセプトを理解できるような説明があった方が良い。

→ 意見として承る。

【市民E】 新庁舎の規模 12,000 m<sup>2</sup>とは、本庁舎と第二庁舎を足した程度の規模か。

→ 本庁舎、第二庁舎、本町暫定庁舎、文書倉庫等を足すと 10,800 m<sup>2</sup>程度となる。

【市民E】 (仮称)新福祉社会館の規模は、旧福祉社会館と比べていかがか。

→ 市民の活動場所は、旧福祉社会館よりも広く設ける予定である。子育て関連の新たな機能も導入予定であり単純な比較は出来ないが、使いやすい(仮称)新福祉社会館を目指している。

【市民E】 市が旧福祉社会館を行政使用しており、利用できない場面があった。(仮称)新福祉社会館ではそのようなことがないようにしてほしい。また、広い会議室を少量設けるよりも、狭い会議室を多く設けてほしい。

→ 効率的に利用できるよう考えていきたい。レイアウト等は基本設計段階で決定することとなるため、意見として承る。

【市民D】 コンストラクション・マネジメントの選考はうまくいったのか。

→ 選考は、公募型プロポーザル方式によって行った。コンストラクション・マネジメント業務は、現段階では設計者選考業務を主たる業務として行っており、市の支援者として適宜協議を行い、業務を行っている。

本事業はコンストラクション・マネジメントの支援なく実現することは困難だと考えている。公募型プロポーザル選考を行い、技術力、実績を総合的に判断し、明豊ファシリティワークスと契約を締結した。

【市民C】 選考等委員会の構成を教えてください。

→ 早稲田大学の卯月教授(建築)、ルーテル学院大学の金子教授(福祉)、明治大学の河上客員研究員(地域防災)、武蔵野大学の水谷教授(建築)、法政大学の宮下教授(建築)、神奈川大学の山家教授(建築)及び小金井市副市長の小泉の7人である。卯月委員及び河上委員は、新庁舎建設基本計画策定時の委員である。金子委員は(仮称)新福祉社会館建設基本計画策定時の委員である。

【市民B】 ユニバーサルデザインに関連し、当事者団体から意見聴取等を行い、必要な設備等について検討を行ってほしい。また、環境団体からも意見聴取等を行ってほしい。CASBEEについても専門家に検討してもらった方が良く考える。

→ 高齢者団体、障害者団体等への意見聴取を行う予定である。環境団体への意見聴取を行うということは現在事業候補者の選考中であり、明言できない。

設計レビュー、市民説明会、パブリックコメント等を実施予定であり、皆さんから多くの意見をいただきたい。

【市民F】 時間軸を区切った中で市民からの意見を聴かないと竣工時期が遅れることとなり、第二庁舎の賃借料へも影響が生じることとなる。もう少し迅速に事業を進めてほしい。

→ 早期竣工を目指しているが、市民の理解も欠かせないと考えている。

【市民B】 この市民説明会の開催結果はどこかで示されるのか。

→ 資料、議事録を市ホームページで公開予定である。

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設に係る市民説明会 (第2回)	日時	平成31年1月27日 (日) 10:00~11:43	場所	商工会館大会議室
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当課長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、岡崎主任、小林主任 地域福祉課 山口主査			
参加者数	21人 (うち市議会議員6人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 これまでの経過と今後の取組みについて 4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行：渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 西岡市長による開会挨拶を行った。</p> <p>3 これまでの経過と今後の取組みについて</p> <p>4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 西岡市長及び高橋庁舎建設等担当課長が各項目について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 平成30年11月の市民説明会では施工段階でのスケジュールが示されていたが、今回の市民説明会では施工段階のスケジュールが示されておらず、後退したように受け取れる。施工段階も含めた工程表が必要と考える。いつから市民が使えるか示してもらいたい。 → 平成30年11月の市民説明会では、調査資料を基に新庁舎・(仮称) 新福祉社会館を同時竣工した場合のスケジュールと、(仮称) 新福祉社会館を先行竣工した場合のスケジュールを示したが、(仮称) 新福祉社会館の早期回復を要件として設計に着手することとした。スケジュールは、基本設計の内容によるため、施工開始前までのスケジュールを示している。</p> <p>【市民B】 広場と緑地の確保を考えるとC-2に優位性があると考え。広場空間を広く取ってほしい。 → これまで施設配置の検討を行ってきたが、基本設計に当たっては、提案条件を示した上で設計者を選考することとなる。広場の確保については、施設配置によるところであるため、現在事業候補者の選考中であり、意見として承る。</p> <p>【市民B】 リサイクル事業所の閉鎖により、使用可能なものがごみとして処分されることとなる。リサイクル事業について、継続してもらいたい。免震構造を採用することにより、地下空間へリサイクル事業所機能を入れることも可能と考える。リサイクル事業所の在り方についても検討してほしい。 → シルバー人材センターとは協議を重ね休止を判断した。清掃関連施設整備基本計画に沿って二枚橋焼却場の跡地の整備が平成31年度から始まる。二枚橋焼却場跡地で展開する処理施設の中で粗大ごみの有効活用について検討していく。意見は受け止める。</p> <p>【市民C】 市民参加のスケジュールはいつ頃を想定しているか。 → 事業者から工程の提案をもらい、協議の上、定まることとなる。設計レビューは一定程度基本設計案がまとまった段階を予定している。そこでの意見も踏まえて、基本設計案が固まった段階でパブリックコメントや市民説明会を行い、基本設計としてまとめる。他の市民参加手法については、事業者からの提案事項であり、実施時期は未定である。</p> <p>【市民D】 免震構造を採用することは決定事項か。 → 免震構造を採用する方が望ましいとの検討結果は平成29年度に得ているが、実際に免震構造を採用するかどうかは上部構造と合わせて検討する。このことから、免震構造を採用するということを決定したものではない。</p> <p>【市民D】 総事業費約91億円は、増える可能性があるのか、減る可能性があるのか。その幅はどの程度なのか。人口減少社会に入っているが、新庁舎建設に係る市民1人当たりの負担額はいくらになるのか。 → 総事業費約91億円は、平成29年度の調査結果に基づくものであり、当該調査時点では新庁舎、(仮称) 新福祉社会館共に免震構造という条件で試算したものである。市民1人当たりの負担という視点での試算は行っていない。</p>				

- 【市民D】 他自治体では安いところで市民1人当たり4万円以下、高いところで5万円を超えている。91億円を新庁舎と（仮称）新福祉会館の面積で按分すると、新庁舎で約66億6,000万円であり、12万人の市民で割ると市民1人当たり約5万6,000円となる。近隣他市の庁舎建設費と比べると高額であり、コスト削減を考えるべきである。茨城の自治体では庁舎が広すぎて困っている事例もあり、人口動態を踏まえた長期的な視点で考えるべき。また、施設配置について、新庁舎の日影となるような（仮称）新福祉会館としてはならない。
- 建設費は、建設時期によっても異なる。コスト削減は重要な視点であり、提案条件としている。市としても努めていきたい。12,665㎡という面積は他自治体の事例と比較して広い面積ではない。（仮称）新福祉会館と複合化することで、更なる面積縮減を図っていきたい。使いやすい庁舎、コンパクトな庁舎を目指していきたい。施設配置は、今後基本設計段階で検討していくものであるため、意見として承る。
- 【市民B】 免震構造の場合、1億円以上の金額が掛かると聞いており、（仮称）新福祉会館を免震構造にする必要はないと考える。多摩26市でも福祉会館を免震構造としている自治体はない。貫井北町地域センターも免震構造ではない。慎重に考えてほしい。また、庁舎建設予定地は湧水源であり、施設を建設したことで湧水が枯れることのないよう対策を考えてほしい。
- 耐震構造については、先程の説明どおりであり、意見として承る。地下水については、「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」を定めており、適切な対応をしたい。これまでの市政上、例のない公共施設の集約化事業であり、市民の方々に長い間、親しんでいただきたい施設である。安全・安心の視点は欠かせず、上部構造も含めて基本設計段階において検討していきたい。施設の建設により、地下水の保全に影響がないよう適切に対応していきたい。
- 【市民E】 現本庁舎の北側が冬季には庁舎の日影となっている。新庁舎は庁舎建設予定地に建設して、（仮称）新福祉会館は本庁舎跡地に建設してはどうかとこれまで意見を述べてきた。本庁舎跡地はどのように活用されるのか。
- （仮称）新福祉会館の建設場所は、庁内及び、（仮称）小金井市新福祉会館建設基本計画市民検討委員会で議論し、庁舎建設予定地と定めた。また、（仮称）新福祉会館の早期回復を設計条件に含めて、事業を進めていく。施設の集約化に伴う跡地の活用については、どのような形が市の将来にとって、市民にとって望ましいのか今後検討を進めていく。本庁舎跡地の活用については、現段階では定まっていない。
- 【市議A】 市民からの意見に対し、「意見を受け止める」という回答しかない。受け止めて検討するのか、受け止めるけど考え方が違うのかはっきりしていない。意見を出した市民の方も受け止めてやってくれるのかどうか分からない。もっと対話すべきであり、回答の仕方考えるべきである。
- 【市民F】 今日は説明会であり、座談会ではない。対話する場ではないと考える。
- 【市議B】 市議会には工事完了までのスケジュール案や施設配置案も出している。市民の皆さんは、日曜日にわざわざ来ていただいており、初めて説明会に出席する人もいるのだから、今後は、適切な資料を市民の方々にも示すべきである。
- 【市民G】 市が考えているユニバーサルデザインとは何か。
- どなたでも分かりやすい、使いやすいということを考えている。
- 【市民G】 国際的に、誰でも使えるということは不可能という見解が示されている。どなたでも使いやすいというのは不可能なので、確固たる評価の視点を持つべきである。
- 高齢者、障害者、外国人等についても使いやすい施設を考えており、施設の通路幅や表示についても考えていきたい。整備に当たっては、バリアフリー法等も踏まえて整備していく。高齢者団体や障害者団体からも意見を聴取する予定である。
- 【市民D】 総事業費は、増える可能性があるのか、減る可能性があるのか。設計者に丸投げのように聞こえたが、上限額を設定しないのか。
- 総事業費約91億円は、平成29年度の調査結果であり、16,400㎡の施設を建設するため試算しているが、工事費は時期によるものもあり、基本設計・実施設計を進めていくことで工事費の試算は精度が高まっていく。コンパクトな施設でコストも削減していきたいと考えるが、精度を高めていく中で91億円を超えないと約束できるものではないが、基本設計の中ではVE（バリューエンジニアリング）を行う予定であり、費用は抑えていくよう努めるが、今後の状況によることについては御理解願いたい。
- コスト縮減は基本的な考えである一方、必要な面積は確保する必要がある。当然、いたづらに豪華な庁舎とすることは考えていない。新庁舎建設基本計画及び（仮称）新福祉会館建設基本計画に掲げる理念を実現できる施設を目指していく。また、CM事業者の支援をいただきながら事業費の精度を高めていきたい。ただし、建設市場の影響があることも御理解いただきたい。
- 【市民F】 当日配られた資料を見ても内容を理解できない。事前に資料を配布し、熟考した上で説明会に臨んだ方が有効と考える。
- 分かりにくくて申し訳ない。平成30年11月の説明会では、これまでの経過や調査した資

料を配布の上、説明を行った。説明会を経て、基本設計において施設配置を定めると決めており、施設配置等を今回示すことで、再度、施設配置の質疑になっては説明内容が分かりにくくなることを懸念して、基本設計に進むに当たっての設計者選考の考え方を、これまでの経過を含めて説明した。

【市民C】 設計者に丸投げするのではなく、市が主体となって市民が納得できるよう進めてほしい。

→ 適切な時期に市民の皆さんとは情報共有を積極的に行っていききたい。基本設計に入るに当たっては、これまで積み上げてきたものをベースとし、優れた設計者を選考の上、進めていきたい。

【市民B】 リサイクル事業所閉鎖に伴い、使えるものをどこへ持って行けば良いか困っている。リサイクル事業所の方針を早急に定めるべきである。

→ 二枚橋焼却場跡地で粗大ごみの資源化をどのように進めていけるか考えていききたい。清掃関連施設については、平成31年度に土地を取得するとともに、清掃関連施設整備基本計画に沿って設計を進める中で具体的な事業の在り方についてしっかり検討していききたい。リサイクル事業所の閉鎖については、シルバー人材センターとは協議を重ねた結果、休止を判断した。ごみの減量は今後も継続しなければならない課題と考えており、今後の環境政策にも取り組んでいきたい。

## 6 閉会

市長が次の要旨で発言した。

本日いただいた御意見も踏まえ、今後もしっかり取り組んでいきたい。

— 以上で、閉会 —